

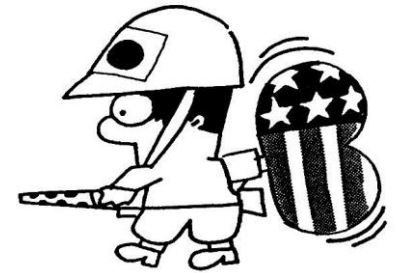


# 芦屋「九条の会」ニュース

発行責任者：片岡 隆  
連絡先 090-7118-2312

## 9条破壊の安保法制を許さない —「いつ」「どこで」「だれとの」戦争へ—

集団的自衛権の行使を容認した昨年7月の閣議決定に基づき、3月20日新たな安全保障法制の大枠に与党が合意した。これまで自衛隊の海外での活動については武力行使を禁じた憲法9条の下で様々な制約があったが、この安保法制ではその歯止めを取払い、世界規模での派遣拡大を認めている。これは軍事費の増大による財政支出に苦しみ、国内に厭戦気分の広がるアメリカを軍事面・財政面から支援し、アメリカと一体となって「いつでも」「どこでも」「だれとでも」戦争ができる国への道を開こうとしているといっても過言ではない。このような戦後の安全保障政策の大転換、解釈改憲としての「戦争法制」を断じて認める訳にはいかない。おりしも、国会で「自衛隊はわが軍」との安倍首相発言があったが、民主党改憲草案にある国防軍と軌を一にするといえるもので、軽視できない。



最新の内閣府調査では「自衛隊の防衛力は現状のままでよい」とする人が59%を占めている。また、3月の朝日新聞世論調査では自衛隊の海外活動拡大について反対が52%（賛成32%）、同月の日本経済新聞社調査でも集団的自衛権行使を可能にする法案への反対が51%（賛成31%）と自衛隊の活動が際限なく広がることに国民の危惧は高まっている。

## 一人ひとりが声を上げ、平和をつくろう！



アンヌ・モレリ著「戦争プロパガンダ10の法則」によれば、あらゆる国のリーダーは戦争が始まる前に必ず言う言葉がある。

「われわれは平和主義者であり、戦争を望んでいるわけではない」。著者が言うようにプロパガンダは戦前から始まっている。かつて、我が国も大本営はメディアを使い国民をその気にさせていた。今の情勢も当時と似ているといっても過言ではない。

今年には戦後70年。これは、この70年間一度も戦争をしてこなかったということ。9条を持つ国として「非戦」を未来永劫に続けていくためには、どんな小さな声であっても上げ続けなければならない。戦争を起こすのは人間なら止めることができるのも人間。戦争を二度と起こさせないために。